

## 「気候変動と脆弱性の国際安全保障への影響」に関する円卓セミナー 滝沢政務官による開会スピーチ

平成29年1月19日

本日、気候変動と脆弱性の国際安全保障への影響に関する円卓セミナーを日本で開催出来ることを喜ばしく思います。本会合は、昨年広島で開催されたG7外相会合において、気候変動がもたらす安全保障上の脅威に対するG7としての方策を探求することが指示されたことを踏まえ、開催されるものです。

気候変動対策の新たな国際的な枠組みとしては、昨年11月4日にパリ協定が発効しました。このパリ協定は、2020年以降の温室効果ガス排出削減等のため、先進国・途上国の区別なくすべての国が参加し、温暖化対策を実行する画期的なものです。日本も、国際社会の一員として、温室効果ガスの着実な削減に向けて努力していきます。

国際社会では、度重なる大規模災害、水や食糧といった資源への需要の急増、難民や避難民の発生など、国境を越えた地球規模の問題が発生しています。これらの問題の根源として、気温の上昇や降水パターンの変化といった気候変動の影響があり、気候変動のもたらすリスクを外交政策に適切に反映させない限り、政治の不安定性や紛争の危険性を除去できないのではないかと指摘されています。特に、脆弱な環境にある国々の体制は気候変動問題の悪影響を受けやすいこともあり、国際社会が一丸となって対応すべき外交政策上の課題となっています。

こうした状況を踏まえ、G7外相間では、気候変動が、環境、地球規模の安全保障及び経済の繁栄に脅威をもたらすものとして、世界が直面する最も深刻な課題の一つであると議論されてきています。

今回のセミナーでは、国内外の様々な分野の第一人者にお集まり頂き各分野における気候変動との関係につき議論をして頂きます。各分野に気候変動がもたらし得る影響に関する知識や知見を共有頂くと共に、気候変動および脆弱性に関する複合的なリスクの理解を深め、国際社会がどのようにこの問題に対処していく必要があるかについて率直な意見交換が行われることを期待しています。

最後になりますが、本日は多くの一般の参加者の方々にもお集まり頂きありがとうございます。今日の会合が、グローバルな議題である気候変動問題を日常生活の中においても身近に感じて頂く機会になりますとともに、一人一人がどのように対応していくべきかを考えていく上での道しるべとなれば幸いです。